

課題対応取組み報告書

名称	都島区北部地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	健活測定会	
地域ケア会議から 見えてきた課題	長期化するコロナ禍で高齢者の外出や社会参加が低下するため、心身の状態が低下し要介護リスクが高まっている。地域の行事や通いの場は休止状態が続き、安全に徒歩圏内で参加できる社会資源がない。高齢者の自立支援を維持し、重度化防止を防ぐためにも、高齢者の健康への自助意識を高め、安全に通える地域の通いの場の継続とさらに発展させる必要がある。	
対象	地域住民	
地域特性	公営、民営による大規模高層住宅群も多く、北部圏域全体の8割近くを集合住宅が占めている。JR城北公園通駅の開業で市外からの人口流入が増える一方、経年が目立つ集合住宅では高齢化が進み、町会や自治会加入は年々減少、コロナ禍もあり地域で見守り支援の難しさ、徒歩圏内の通いの場の少なさがある。	
活動目標	・北部圏域全域の高齢者が継続的に健康づくりに取り組めるよう、友渕、毛馬地域の「健活測定会」に加え、地域からの要望もあり、薬剤師会と連携しながら内代・高倉・大東地区で「出張健活」を開催していく。 ・引き続き「オンライン健活」を開催し、より多くの高齢者に健康に関する情報と地域包括支援センター（以下「包括」という）や認知症初期集中支援チーム（以下、「オレンジチーム」という）等の相談窓口の周知を行う。	
活動内容 (具体的取組み)	①健活測定会 ・開催日時：第2金曜日（10:00～12:00, 13:30～15:30） ・実施場所：ウエルシア薬局都島友渕店、都島毛馬店 地域開放スペース ・実施回数：6回（友渕店：4月・9月・2月、毛馬店：5月・10月・3月） ・参加人数：延べ54名（平均9名）※定員12名 ・活動内容：測定（体組成、血圧、骨強度、握力、ロコモ度テスト）、相談（栄養、薬） 包括、ブランチ、都島オレンジチームの周知活動および相談会実施 ②オンライン健活 ・実施回数：3回（8月・1月・3月） ・参加人数：延べ24名（平均8名） ・活動内容：8月→薬剤師による薬に関するミニ講座 1月→薬剤師による聴力に関するミニ講座 3月→歯科医師による口腔に関するミニ講座 ③出張健活 ・実施回数：5回 ・実施場所：高倉地区：6月・11月（みゆきコミュニティ） 大東地区：7月・12月（大東福祉会館） 内代地区：1月（市営内代第2住宅集会所） ・参加人数：延べ54名（平均10名） ・活動内容：測定（体組成、血管年齢、ベジチェック、ロコモ度テスト）、相談（栄養、薬）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①健活測定会 ・継続参加者：毛馬店 約8割、友渕店 約7割 → 健康意識の高い高齢者が参加する地域の通いの場として定着している ・参加者は運動だけでなく栄養に関する意識が高く、健康づくりに大いに役立っている。 ・継続参加者の約7割が介護保険未申請。1年後も介護申請には至らず、健康状態を維持できている。 ②オンライン健活 ・参加者の9割は介護保険未申請。健康への意識が高く、日頃から自発的に健康づくりに取り組んでいる。 ・介護保険サービスを必要としない元気な高齢者に包括やオレンジチームを周知する機会になった。 ③出張健活 ・参加者の8割は介護保険を必要としな元気な高齢者であった。 ・参加者の多くは健康づくりに関して栄養面を意識する人が少なく、運動を意識した参加者が多かった。 ・参加者から測定内容を増やしてほしい。交通アクセスが良くてわかりやすい場所で開催した方が参加しやすいという意見や要望があった。	
今後の課題	・健康づくり＝運動という認識の参加者が多く、更なる健康寿命の延伸に繋がるために、栄養面を含めた正しい情報や健康づくりの方法の周知が必要である。 ・「健活測定会」、「出張健活」の需要はあるが、元気な高齢者は雑誌やテレビ、インターネット等で健康に関する様々な情報を得ているため、令和4年度実施した「出張健活」の内容では、継続的な参加につながらない。 ・測定器具の種類を増やすには、今回の会場ではスペースが足りない。また、より多くの住民が参加できるように利便性や会場の知名度、開催時期を検討する必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 19日 （水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域での見守り支援の難しさ、徒歩圏内の通いの場が少ないという地域の特性、さらにコロナ禍による影響に対する取り組みであり、薬局、薬剤師会や歯科医師会と連携しながら経年的に取り組んでおられる。地域のニーズをとらえて、地域住民が継続的に健康づくりへ取り組みやすくするために活動の場を広げ、出張健活やオンライン健活も開催されており、発展された取り組みである。「継続参加者のうち介護保険認定未申請者が1年後も介護保険認定申請を必要とせず、健康状態を維持できている。」「介護保険サービスを必要としない元気な高齢者に包括やオレンジチームを周知する機会となった。」という成果から自立支援・重度化防止、健康寿命の延伸に向けて取り組みがなされていると考える。今後も引き続き、測定データの分析や地域のニーズから、測定内容の調整、必要な健康づくりへの情報発信への取り組みを期待している。